

乳腺外科

【プログラムの特徴】

横浜労災病院乳腺外科の研修は、一般外科医としての基本的な診療技術・手術手技を身につけると共に、がんの集学的治療からメンタルケアまで幅広く習得することを目的としており、専門領域として「がん診療医」を考えている医師へのスキルアップカリキュラムとして位置づけています。

現在、我が国では年間8万人以上が新たに乳癌と診断されており、女性のがん罹患率の第1位となっています。本邦の乳癌は40～50代で罹患率が高く、職場でも家庭でも中心的な役割を担う世代で発症します。今までの乳癌診療は、外科的切除が治療の中心であったため、「一般外科」の一部門として治療が行われてきました。しかし、近年はがん病巣の切除にとどまらず、化学療法、内分泌療法、分子標的療法、放射線療法による集学的治療が行われるようになり、乳腺外科は「がん治療に関する総合診療科」の色合いが強くなっています。また、乳癌を治療していく過程では切除術式、乳房再建、薬物療法、妊孕性の問題など、患者自身が治療法を選択する場面が少なくありません。そのため、外来診療では患者・家族と十分なコミュニケーションをとりながら、患者一人一人に「自分にとって最適な治療」を選択してもらう必要があります。このように、手術手技や周術期の病棟管理だけでなく、手術以外の集学的治療、外来診療における検査手技、患者・家族とのコミュニケーションスキルを習得することも乳腺外科研修の特徴といえます。また、形成外科的手技のスキルアップを希望する方は、手術研修を中心とした形成外科とのハイブリッドコースも選択可能です。

(注：形成外科との調整があるため事前に相談してください)

最後に、乳腺外科では「楽しく充実した研修」を目標としています。手術や診療の合間で交わされる先進医療、基礎研究、留学などの経験談も、将来の「医師像」をイメージする上で参考になると考えています。ぜひ私たちと一緒に、最新の乳癌診療について勉強していきましょう。

【研修到達目標】

- 1 基本的事項、検査・診断について
 - ① 乳癌診療についての基礎知識と社会的ニーズについて理解する
 - ② 適切な画像診断の選択と読影方法について理解する
 - ③ 乳癌診断に必要な検査手技を習得する
- 2 外科治療について：
 - ① 根治性と整容性のバランスを考えた手術計画について理解する
 - ② 安全に手術を行うために周術期の管理（術前・術後評価）を習得する
 - ③ 術者と助手の役割について理解すると共に、一般外科、形成外科的基本手技を習得する
- 3 集学的治療とチーム医療について
 - ① 化学療法、内分泌療法、放射線療法を含めたがんの集学的治療を理解する

